

## 北海道における女性農業者のネットワーク活動とその意義

共生基盤学専攻 共生農業資源経済学講座 農業経営学 伊藤有理沙

### 1. はじめに

農業における労働力の減少が著しい。それは、日本農業の衰退につながっている。そのような状況下で、多様な農業の担い手の育成が重要視されている。特に、農業の六次産業化が推進されて以来、農業・農村における女性の活躍が注目されている。

「女性農業者」を語る時、その捉え方が一様である。しかし、世代によっても地域によってもそのあり方は一元的ではないはずである。

これまでの研究で取り上げられてきた女性農業者たちは、現在50歳代以上の高年層となっており、若年層の女性農業者の実態が明らかにされているとは言い難い。

本論文では、北海道の若手女性農業者ネットワークに焦点を当て、その活動の実態を調査し、ネットワーク活動が彼女たちに与える意義を明らかにする。

### 2. 方法

北海道で活動する女性農業者ネットワーク組織を調査し、その形成の特徴を分析した。その中から、若年層が中心となっている2つのネットワーク組織の会員に対して、参加経緯や目的、参加前後の変化、現在の社会関係等について聞き取り調査を行い、各ネットワークの特徴を分析した。

### 3. 結果と考察

北海道の女性農業者ネットワーク組織は、会員の居住範囲によって分類することができる。すなわち、「全道ネットワーク」と、地域内にとどまる「地域ネットワーク」の2タイプである。全道ネットワークは、女性農業者が自主的に設立・運営している。他方、地域ネットワークは、設立・運営に関して、普及事業の支援を受けている。

ネットワーク組織は、全道ネットワークの会員にとっては、農業経営のスキルアップの場である。他方、地域ネットワークの会員にとっては、友人との交流の場であると言える。ネットワーク組織の目的には相違が見られる。また、女性農業者とその活動の多様化が確認できる。

### 4. おわりに

戦後の民主化に貢献してきた農協女性部と、普及事業による生活改善事業は衰退傾向にある。その結果、女性たちは血縁・地縁に捉われない自主的な社会関係であるネットワークの形成により、自らの活動の場を創り出している。

女性農業者の支援に向けた施策としては、女性農業者のネットワーク形成に対する支援策があるが、女性農業者の多様なニーズに合った支援を行うことが必要である。また、現在、2タイプの女性農業者ネットワークには相互の交流はほとんどないが、何らかの形で双方が情報共有を行い、連携していく必要があるだろう。